

研究課題名 網羅的ゲノム解析による膵腫瘍ならびに十二指腸腫瘍、胆道腫瘍の本態解明と新規診断・治療法の開発

研究責任者名 広島大学病院 病理診断科 教授 有廣光司

研究期間 倫理委員会承認後 ～ 2025年3月

対象者

患者さんの手術等で摘出された標本のうち病理組織検査で使用しない余剰検体や解剖検体を研究のために使用します。対象の病気は膵腫瘍と十二指腸腫瘍、胆道腫瘍です。

意義・目的

本研究で膵腫瘍と十二指腸腫瘍、胆道腫瘍の遺伝子の特徴が明らかになれば、遺伝学的な特徴に基づく化学療法や分子標的薬剤の選択、さらに新たな治療薬の開発につながります。また、腫瘍発生のメカニズムを解明することによって、膵腫瘍と十二指腸腫瘍、胆道腫瘍の予防や早期発見に寄与できるかもしれません。次世代シーケンサーをはじめとする革新的な技術開発によって、多種多様ながん遺伝子の情報を大規模かつ高速に得ることが可能となってきました。本研究の目的は、本邦における膵腫瘍と十二指腸腫瘍、胆道腫瘍の原因となる遺伝子異常を特定することです。

方法

本研究は、ヒトゲノム・遺伝子解析研究です。手術の際に摘出された腫瘍組織と非腫瘍組織の一部と、診療録（カルテ）情報（性別、血液検査（腫瘍マーカー）、予後等）を用いて行います。本研究は国内外19施設の共同研究で、大阪大学医学部附属病院が主幹施設になっています。膵腫瘍と十二指腸腫瘍、胆道腫瘍の患者さんの腫瘍組織を用いて、全遺伝子のシーケンス（塩基配列）解析などの網羅的な遺伝子解析を行います。ゲノム（遺伝子）解析は、次世代シーケンサー等の最新のテクノロジーを活用して行います。膵腫瘍と十二指腸腫瘍、胆道腫瘍に特徴的な遺伝子変異などを同定することによって、これらの腫瘍の成り立ちを解明し、有効な治療薬の選択や新たな治療薬の開発に道を拓くものです。

試料・情報等は名前などがわからないようにした上で、大阪大学大学院 医学系研究科 医学専攻 がんゲノム情報学（研究責任者 谷内田真一）もしくは国立がん研究センター 研究所・ゲノム医科学分野へ提供し、膵腫瘍ならびに十二指腸腫瘍、胆道腫瘍と関連する遺伝子の解析を行います。

共同研究機関

谷内田 真一（大阪大学大学院 医学系研究科 医学専攻 がんゲノム情報学）

谷内田 真一（国立がん研究センター 研究所 ゲノム医科学分野）

後藤 明輝（秋田大学大学院 医学系研究科 医学専攻 病態制御医学系 器官病態学）

水間 正道（東北大学病院 総合外科）

調 憲（群馬大学大学院医学系研究科 病態腫瘍制御学 肝胆膵外科学講座）

樋口 亮太（東京女子医科大学 消化器病センター・消化器外科）

山田 豪（名古屋大学大学院 医学系研究科 消化器外科2）

波多野悦朗（京都大学大学院医学研究科 肝胆膵・移植外科／小児外科）

高橋 秀典（大阪国際がんセンター 消化器外科学）

庄 雅之（奈良県立医科大学 消化器・総合外科）

山上 裕機（和歌山県立医科大学 外科学第2講座）
岡野 圭一（香川大学 医学部・消化器外科）
前場 隆志（JCHO りつりん病院）
中村 雅史（九州大学大学院医学研究院 臨床腫瘍外科）
吉住 朋晴（九州大学大学院医学研究院 消化器総合外科）
三森 功士（九州大学病院 別府病院 外科）
杉町 圭史（九州がんセンター 肝胆膵外科）
Ralph H. Hruban（Johns Hopkins Medical Institutions）
G. Johan A. Offerhaus（University Medical Center Utrecht）
田上 潤（タカラバイオ株式会社 製品開発センター）

試料・情報の管理責任者

大阪大学大学院 医学系研究科 医学専攻 がんゲノム情報学 谷内田真一

個人情報の保護について

本研究は広島大学ヒトゲノム・遺伝子解析研究倫理審査委員会にて審査を受けて承認をされています。研究は、プライバシー保護に十分留意して行います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。研究に試料を提供したくない場合は以下の窓口へお申し出ください。お申し出いただいても今後の診療等に不利益が生ずることはありません。

問合せ・苦情等の窓口

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3
広島大学病院病理診断科 教授 有廣 光司
Tel（またはFAX）：082-257-5590
E-mail：arihiro@hiroshima-u.ac.jp